2021 年 1 月 13 日

責任あるパーム油調達方針　進捗レポート（2020 年 1 月～6 月）

不二製油グループ は 2016 年 3 月に責任あるパーム油調達方針を策定・公表しました。責任あるパーム油調達方針は、当社グループのサプライチェーン上のすべてのパーム油製品についての、森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ（NDPE:　No Deforestation, No Peatland and No Exploitation）に向けたコミットメントを表明しています。
https://www.fujioilholdings.com/news/2016/__icsFiles/afieldfile/2018/01/12/160310.pdf

責任あるパーム調達方針の進捗について、半年ごとにステークホルダーの皆様に対してお知らせしています。本レポートでは 2020 年 1 月以降の新たな進展についての情報を提供しています。

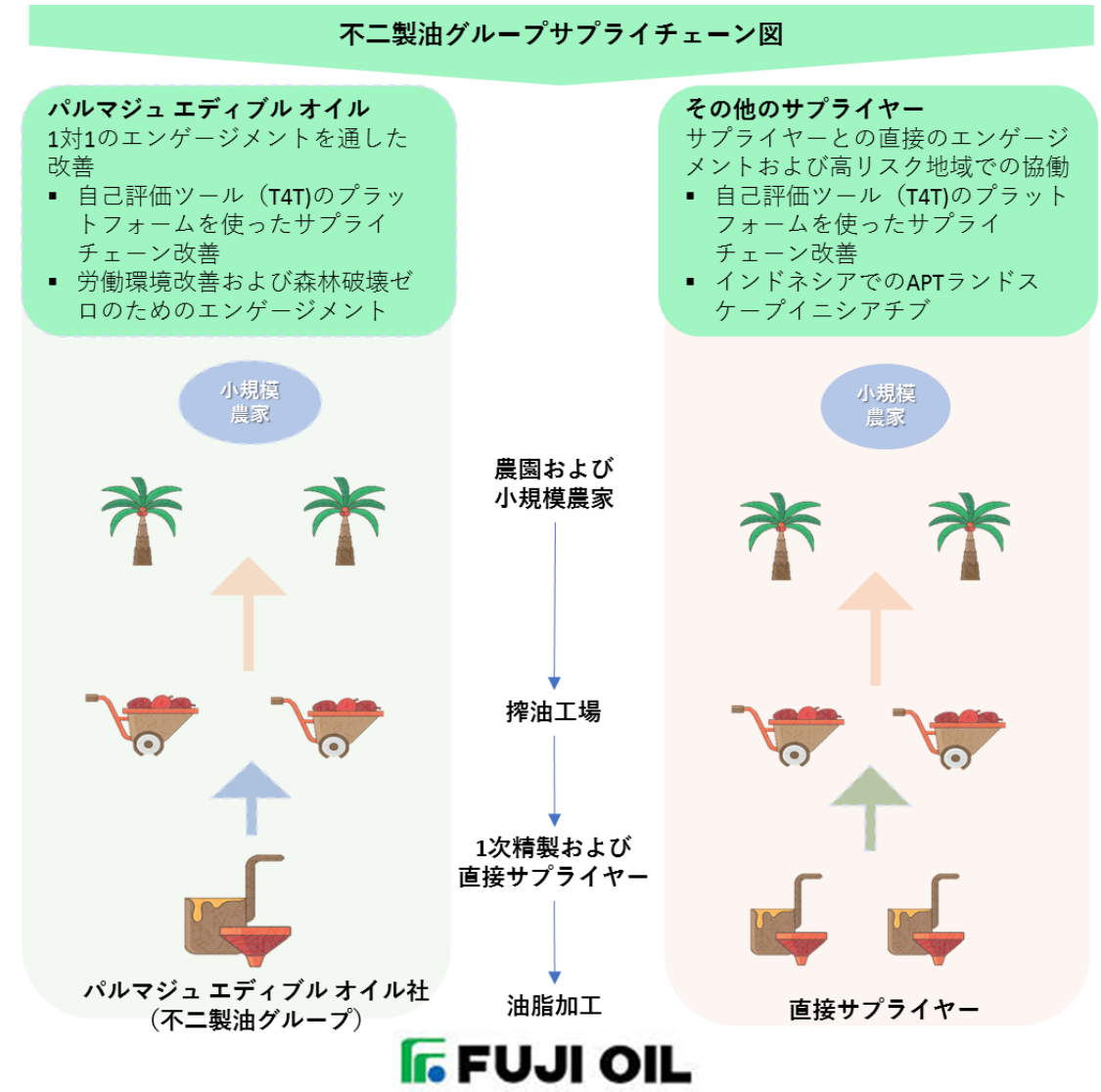
進捗報告

図 1 に示されるように、不二製油グループは責任あるパーム油調達方針に基づいた取組を実施しています。本レポートでは 2020 年 1 月より進捗のある以下の 4 つの活動について取り上げます。

1. **トレーサビリティ**
2. **グリーバンス（苦情処理）メカニズム**
3. **パルマジュ社のサプライチェーン改善活動**
   A. 変革のための自己評価ツール（T4T: Tools for Transformation）
      ※NDPE 自己評価＆モニタリングのためのプラットフォーム
   B. “搾取ゼロ”コミットメント実践のためのエンゲージメント（LTP : Labour Transformation Programme）
   C. “森林破壊ゼロ”コミットメント実践のためのエンゲージメント
4. **APT ランドスケープイニシアチブ（インドネシア スマトラ）**

責任あるパーム油調達方針に適合するために、当社グループは小規模農家、搾油工場、精製工場、そしてサプライヤーと協働して、サプライチェーンの課題の認識と是正に取り組んでいます。

【図 1: 不二製油グループ責任あるパーム油調達方針に基づく主要な改善活動の全体像】



不二製油

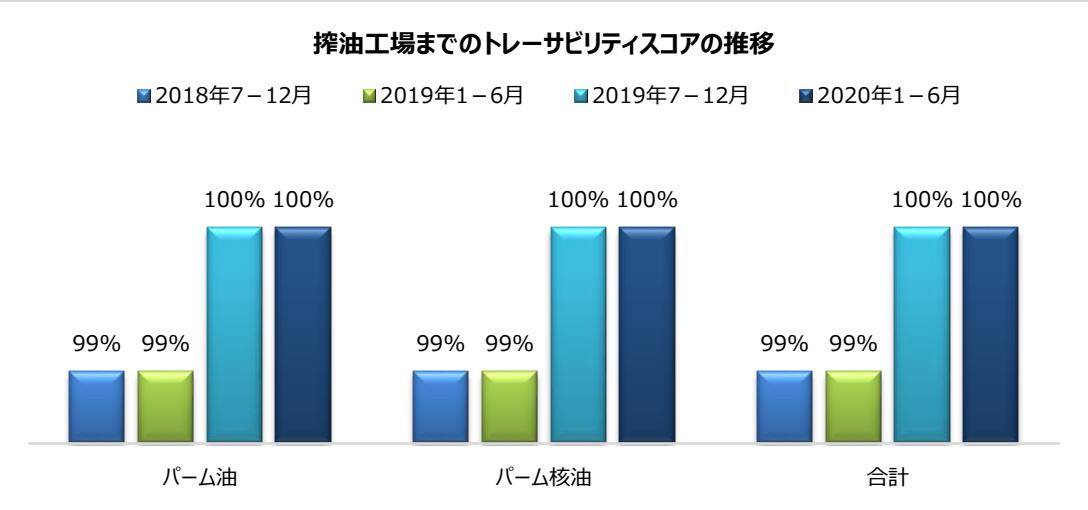
責任あるパーム油調達方針 進捗レポート（2020 年 1 月～6 月）

1．トレーサビリティ：図 1　不二製油グループサプライチェーン図を参照ください

不二製油グループは、NDPE に順守した透明性のあるサプライチェーンを目指し、不二製油グループ全体で購入・加工するすべてのパーム油について、2020 年までに搾油工場までのトレーサビリティを目指しています。

当社グループは、前回の進捗報告（2019 年 7 月～12 月）に引き続き、不二製油グループ全体で 2020 年 1 月から 2020 年 6 月にかけての搾油工場までのトレーサビリティが 100%に到達したことをお知らせいたします。

【図 2: 2018 年 7 月～2020 年 6 月の搾油工場までのトレーサビリティの概況】



不二製油グループは、責任あるパーム油調達方針で表明する通り、サプライチェーンの透明性を高める事に取り組んでいます。今後もトレーサビリティを維持するために、継続してサプライヤーとのエンゲージメントを強化していきます。

結果に関する留意事項

- トレーサビリティレベルは、データの有効性、調達先の変更あるいはその他の問題に伴い変動する場合があります。
- すべてのトレーサビリティの数値は、サプライヤーによって自己開示された情報に基づきます。搾油工場の GPS 座標については、当社グループが直接保有する情報だけではなく、パートナーである国際的な非営利団体の Earthworm Foundation（以下、EF）が保有する情報を使用しております。
- また、一部の搾油工場データに関して、EF と当社グループのサプライヤーの間で秘密保持契約を締結しており、現在当社グループがこのデータを保有する計画を進めております。

2. グリーバンス（苦情処理）メカニズム：

当社グループは NDPE（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）を実行するために、2018 年 5 月にグリーバンスメカニズムを構築・公表しました。グリーバンスプロシージャー（苦情処理手順書）およびグリーバンスリスト（苦情リスト）については以下のリンク先（英文）でご覧いただけます。
https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/
2020 年 4 月に、グリーバンス（苦情）に対してより迅速に対応するために、グリーバンスプロシージャーを見直しました。更新されたグリーバンスプロシージャーには、サプライヤーのグループ単位での取り組み、一時停止とエンゲージメント（積極的働きかけ）のプロトコルの確立が含まれており、当社グループに対するグリーバンスをどのように処理するかについての明確な手順を示しています。

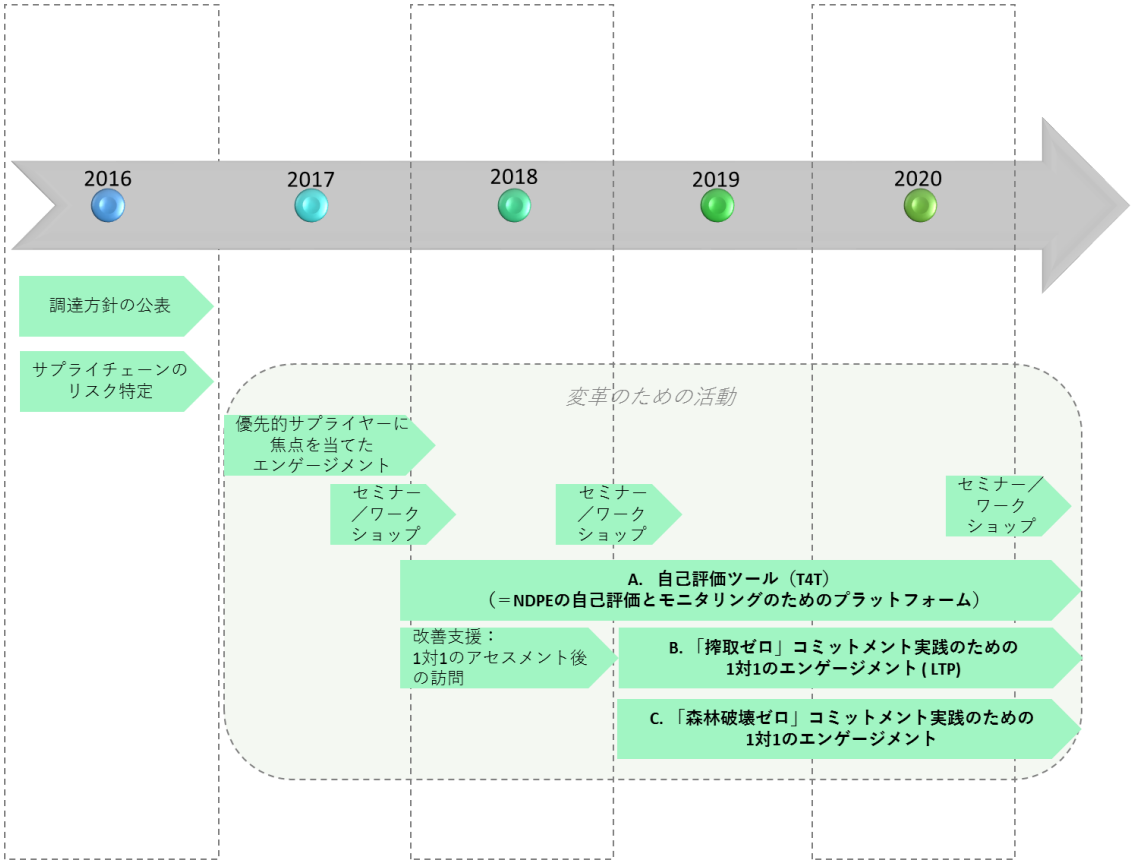
グリーバンスリストは 4 半期に一度更新されており、最新版は 2020 年 9 月に更新されています。当社グループは、さまざまな関係者から提起されたグリーバンスが私たちのコミットメントに従って、サプライヤーへのモニタリング、エンゲージメント、コミュニケーションを行っていきます。

3. パルマジュ社のサプライチェーン改善活動

2016 年 7 月以降、当社グループは責任あるパーム油調達方針を推進するために、EF と取り組んでいます。当社グループの精製工場であるパルマジュ エディブル オイル（以下：パルマジュ社）のサプライチェーンにおいて、粗パーム油(Crude Palm Oil ：CPO)とパーム核油(Palm Kernel Oil： PKO)のサプライヤー向け **Aggregator Refinery Transformation**[i]**（ART）**に着手しています。ART ではサプライチェーン上の精製工場から搾油工場、生産者(農園)における問題点を把握して現地での改善活動を支援してきました。

私たちの ART 活動は、サプライチェーン上における問題点を把握し、改善を行ってきました。これらの活動は、幅広いレベルのエンゲージメント（トレーニングとセミナー）から、自己評価、モニタリング、および 1 対 1 のフィールドワーク（現場での対話・働きかけ）を行っています。ART 活動の概要を図 3 に示しています。

【図 3：ART 活動の概要】



A. 自己評価ツール（T4T: Tools for Transformation）：NDPE の自己評価とモニタリングのためのプラットフォーム

不二製油グループは、変革のための取り組みを拡大し、当社グループのパーム油サプライヤーが、その事業環境と不二製油グループの調達方針の要件（NDPE：森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）とのギャップを理解しながら実践を自己評価するための支援をすべく、**自己評価ツール（T4T）**[ii]を利用しています。このツールはサプライヤー及び当社グループの双方にとって、当社グループの責任あるパーム油調達方針に対するサプライヤーの現状を把握するのに役立ちます。

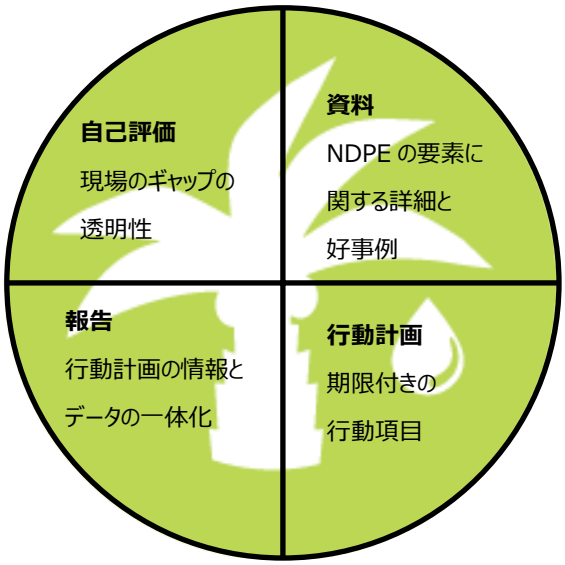
合計 48 社が、2019 年の変革のための自己評価ツールに関するワークショップに参加し、当社グループとのエンゲージメントを行っています。図 4 に示すように、搾油工場と農園による自己評価ツールの取り組み件数も 2018 年以降増えており、サプライヤーが当社グループの取り組みに賛同・協力しています。

【図 4 ：2018 年と 2019 年の自己評価ツールの取り組み件数】

		2018 年件数（件）	2019 年件数（件）
パルマジュ社	搾油工場	7	8
	農園	5	10
間接サプライヤー	搾油工場	-	14
	農園	-	11

2019 年に、アクションプランを含めた内容に変更しました。T4T に対する回答から判明した問題に対応する為のアクションプランを提供しました。

【図 5：自己評価ツール（T4T）概要】



当社グループは、状況に応じてサプライヤーと連絡を取り、特定された問題点を改善し、方針を遵守するよう継続的にサプライヤーと取り組んでいきます。

B. “搾取ゼロ”コミットメント実践のための 1 対 1 のエンゲージメント [LTP]

「自己評価ツール」を通して、特に産業界における労働慣行と基準の改善に向けた取り組み強化の必要性を明確に把握することが出来ました。当社グループは、パーム油サプライチェーン上における強制労働を無くす必要性を認識しています。これは、特に NDPE 準拠を標榜する主要なパーム油のサプライヤー及び使用者にとって優先事項です。この支援は、中小事業者が強制労働の緩和に向けた改善活動を行うために有用です。

2020 年上半期、不二製油グループは“搾取ゼロ”コミットメントを実践するために、継続して主要なサプ

ライヤーへの 1 対 1 でのエンゲージメントを強化しています。特にパルマジュ社における**労働環境改善プログラム（LTP）**[iii]は、雇用契約、賃金・労働時間、苦情処理メカニズム、移動の自由、結社の自由、移民労働者の採用プロセス、安全衛生、適切な宿舎の提供等、特定の搾取リスクに対処するものです。

従来のフィールドアセスメントとは異なり、LTP は、抽出した問題点に関する分析に基づいて、サプライヤーごとに、労働慣行改善を支援することに焦点を当てています。このような取組により、サプライヤーがNDPE に準拠していくことを目指します。

今年、パルマジュ社のサプライチェーン内の主要な企業 2 社との LTP エンゲージメントを計画しました。新型コロナウイルス（COVID-19）の流行により、上半期の移動・訪問が制限されていたため、下半期に実施される予定です。訪問予定についての検討を進めており、状況が許せばサプライヤーを訪問します。

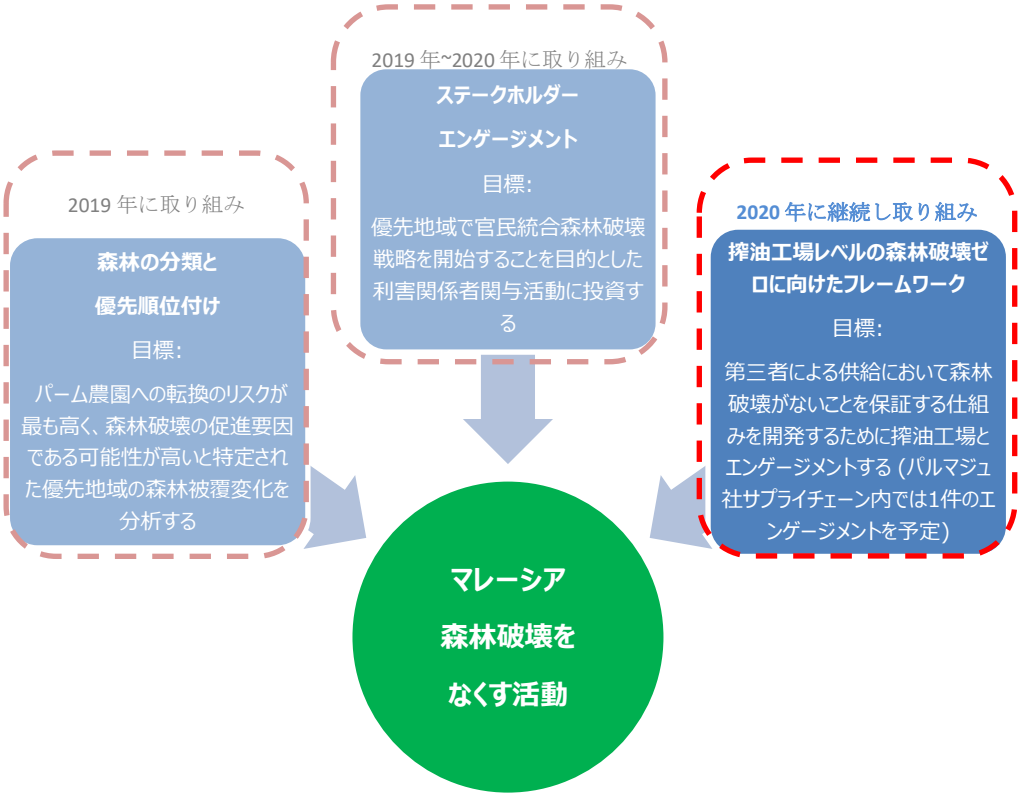
また、2021 年の早い時期にパルマジュ社のサプライヤーを対象にワークショップを開催し、多岐にわたる問題を共有し、現地での理解と実践の向上を図る予定です。

C. “森林破壊ゼロ”コミットメント実践のための 1 対 1 のエンゲージメント

当社グループでは、責任あるパーム油調達方針を指針としており、サプライチェーン上の森林破壊ゼロや泥炭地開発ゼロの実現を目指しています。これらを達成するために、サステナビリティに関するパートナーや他の業界関係者と協力して、マレーシアでの森林破壊を無くす活動を策定しています。

これらの活動は、サステナビリティに関するパートナーであるEFとともに取り組んできました。図6に示す活動は、森林破壊への影響を最大化し、森林破壊ゼロのコミットメントと方針を、官民双方の関与を目的とした二本柱の戦略の両側面に基づいて効率的に実施することを目的としています。

【図 6: 森林破壊ゼロ戦略 活動と目標 】



2019 年には、当社グループと EF の協働により、以下の重要な進捗がありました。

- サプライヤーとのエンゲージメント戦略を進め、政府機関が優先的地域に焦点をあわせるためのマレーシアのホットスポット検出予測図の基礎作り
- 森林破壊を推進する要因を理解するための、サバ州の 3 つの調査地の空間分析
- 省および関係部局長とのステークホルダーミーティング
- 農園までのトレーサビリティ推進のためのガイダンス文書の開発

2020 年も、当社グループは農園までのトレーサビリティのより良いプロセスを構築するという目標を達成するために、搾油工場レベルでの森林破壊ゼロのためのエンゲージメント*に集中的に取り組んでいきます。現地のサプライヤーへの訪問は今年の下半期に予定されています。

＊搾油工場レベルでの森林破壊ゼロのためのエンゲージメント
搾油工場レベルでの森林破壊ゼロのためのエンゲージメントは、パーム果房（FFB：Fresh Fruit Bunches）が森林破壊のない場所から調達されることを保証する目的で、CPO サプライヤーに働きかけるものとして設計されています。また、関係する FFB 仲買人と交流し、追加の農園までのトレーサビリティ（TTP：Traceability to Plantation）情報を収集する機会でもあります。以下の 2 件のエンゲージ

メントが予定されています。

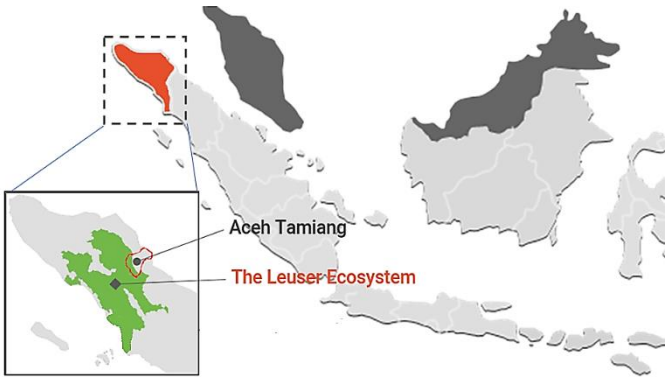
- エンゲージメント１：最初の現場訪問が完了し、現在進行中です。
- エンゲージメント２：対象となるサプライヤーを特定した段階です。

4. APT ランドスケープ イニシアチブ インドネシア：図１サプライヤーの活動を参照下さい

当社グループの調達先の約 60%はインドネシアからのものであり、インドネシアは依然として当社のサプライチェーンの主要な供給源です。

当社グループは、森林破壊を低減し、商品の生産・自然の保護・適切な社会および労働慣行のバランスを大規模に保つことの実現可能性を示すために、**APT ランドスケープ イニシアチブ（Areal Prioritas Transformasi ：APT）**[iv]に 2018 年より参画しています。

【図 7：アチェ・タミアン地域の所在地】



Location of Aceh Tamiang Landscape with respect to the Leuser Ecosystem.

世界が新型コロナウイルス（COVID-19）の流行のなか、APT ランドスケープイニシアチブの現場チームにより、2020 年 1 月から 2020 年 6 月の間に、アチェ・タミアンと南アチェに関係するすべてのステークホルダーとのエンゲージメントについて以下の順調な進展がありました。

- 地域の問題の相互理解を構築するために、市長と関連機関に持続可能性の自己評価を提示しました。
- パンタイ・カンパ、ベンケレン、バボにおいて 2 万本の種子と苗木が配布されました。また、300 名の農家へのトレーニングを継続しました。これらは生計プログラムの試験運用の一環です。
- アチェ・タミアンと南アチェの森林破壊の減少傾向を確認しました。

Next Steps

2020 年度も、当社グループは責任あるパーム油調達方針を守るための取り組みを継続しています。新型コロナウイルス（COVID-19）が蔓延しているという前例のない状況下で、現場での作業が中断を余儀なくされた場面もありましたが、当社グループの計画が確実に達成されるように取り組んでいきます。

当社グループは、その取り組みをサプライチェーン全体で確実に実施すべく注力しています。森林破壊ゼロの目的を達成するためには FFB の供給がどこから来ているのかを理解することが重要であると認識しており、農園までのトレーサビリティは、取り組みを強化する分野の 1 つです。

自己評価ツールを活用して、引き続きサプライヤーと協力していきます。このツールは、サプライヤーとのギャップや必要な支援の把握に役立ちます。これらの把握により、サプライヤーとのエンゲージメントをスムーズに行う事が出来ます。

これから予定している主要サプライヤーとの「1 対 1 のフィールドエンゲージメント」は、業界の要望をより良く理解する機会を提供し、“搾取ゼロ”“森林破壊ゼロ”の取組やトレーサビリティの向上に関するガバナンスをサプライヤー自身が持つように働きかけます。

当社グループは、苦情のレビューと対応を継続することを約束すると共に、専用のダッシュボード（サプライチェーンデータベースの WEB サイト）上で、グリーバンスリスト（4 半期に 1 度）、サプライチェーンデータおよびトレーサビリティスコア（半年毎）を定期的に更新します。

---

[i] **Aggregator Refinery Transformation：**当社グループの方針とパルマジュ社のサプライチェーンの現状とのギャップを埋める活動の呼称
詳細は以下 URL をご参照下さい（英語）
https://www.earthworm.org/news-stories/art-episode-1-how-tft-works-in-palm-oil-an-introduction-to-the-art-plan
https://www.earthworm.org/news-stories/art-episode-2-traceability-getting-to-the-heart-of-things
https://www.earthworm.org/news-stories/art-episode-3-mpp-plotting-the-road-map

[ii] **T4T（Tools for Transformation）：**Earthworm Foundation によって作成および管理されているオンラインシステムであり、パーム油精製所がサプライヤーと協力して現場での慣行を改善し、進捗状況を報告できるようにするものです。本システムでは、デジタルテクノロジーの力を使用して、大量のサステナビリティに関するデータを転送および収集し、自動的に行動計画を生成し、事業慣行とノウハウを結びつけることで、現場で段階的な変革を実現します。

[iii] **労働環境改善プログラム（Labour Transformation Programme ：LTP）：** 2019 年に Earthworm Foundation によって開発された、主要な労働問題を中心とした変革に焦点を当てた、サプライヤーエンゲージメントイニシアチブです。

[iv] **APT ランドスケープ イニシアチブ（Areal Prioritas Transformasi ：APT）：** 優先的に改善すべきエリアのためのイニシアチブの呼称
詳細は以下 URL をご参照下さい（英語）
https://www.earthworm.org/our-work/projects/aceh-tamiang-sumatra-indonesia
https://www.earthworm.org/news-stories/tft-and-aceh-tamiangs-local-government-gearup-to-support-smallholders-and-protect-forests